

株式会社三共消毒

訪問者

(公社)東京都ペストコントロール協会理事 広報委員長 葛西 晋平

第3回目を迎える会員訪問シリーズは、中央区銀座に本社を構える(株)三共消毒にお邪魔した。今年で創業90周年を迎え、会社規模やPCO施工技術に於いても業界トップクラスであり、東京協会に於いても副会長という重責を担う泉社長にお話を伺った。



明るく清潔感のあるエントランス



PCO業務スタッフの皆様

「株式会社三共消毒」は、東京都中央区銀座2-2-2に本社を置き、葛西が平成27年6月9日に訪問し、代表取締役泉敏夫さんにお話を伺った。海外出張からお戻りになったばかりのお忙しい中お時間を頂き、貴重なお話をお聞かせいただいた事に深い謝意を表します。

(葛西) 本日はお忙しい中、お時間を頂きありがとうございます。

(泉) マスコミやクライアントからの依頼で話をしたり文章を出したりすることはま

まありますが、協会向け、どちらかと言うと内輪向けに話をするとすると、どんなことを話して良いか、正直迷いました。

(葛西) 協会員は様々です。それぞれ考え方や仕事への取り組み方に違いがあると思います。御社なりのそんな部分をお話し頂ければ良いと思います。

では早速ですが、今年で創業90周年を迎えられたとの事、誠におめでとうございます。創業当時のお話などを伺えますでしょうか？

株式会社三共消毒

(泉) 当社は大正14年創業、今年で90周年を迎えました。創業者は小川徳松(故人)さんという栃木県出身の方です。

当時、東京・品川区の不動産屋に勤めていたそうですが、家賃の集金に行くたびにお客様から南京虫の相談を受け、PCO業者を手配し紹介窓口のような事をしていました。そんな出来事が南京虫と付き合いきっかけでしたが、それがまさしく三共消毒設立の動機になってしまったそうです。南京虫に大変興味を持ち、付き合いのあったPCO業者から防除方法、価格の算出方法、労務管理などを教えてもらい、会社を作り上げたと聞きました。

丁度戦時中でしたから、様々な意味で大変ご苦労なさったと思います。



創業者 故小川徳松氏 左

(葛西) 昭和元年と言うと、私にとっては歴史の教科書の中の話にしか思えない時代なのですが、その当時にPCO業務に着目し開業するというのは、なかなか勇気がある事だったと思います。

(泉) かなりリスクはあったはずです。現に、小川は勤めていた不動産屋の社

長に頼み込んで、在職のまま開業したらいいですから、本人なりに迷いもあったと思います。

(葛西) 世の中の衛生に対する観念がどの程度高かったのかも疑問ですし…。ネズミや害虫がいるのはやむを得ないと言う感覚も普通でしょうからね。PCO業務のセオリー的なものも確立されていなかった。

(泉) そうですね。商売もすぐに軌道に乗った訳ではないでしょうし、少しずつ細く長くという感じで続けて行き、40年代の高度成長期にシロアリ需要でわが社もある程度成長し、50年代の発展期には工務店とのタイアップで、多くのお客様の紹介を求め、その作業実績により皆様からの信用をいただいて参りました。

(葛西) 半世紀を掛けて、まさに土台を固めたという事ですね。

(泉) 商売として地道に育んだのはもちろんなのですが、自社のプロモーションも上手だったみたいですね。テレビやラジオなどのコマーシャルへの展開をいち早く行い、当時としてそれなりの予算を宣伝広告に使ったと聞きました。

(葛西) なるほど、話を伺っていると、小川さんと言う方は、まさしく名プロデューサーと言う感じですね。

さて時代は流れ、現在は泉さんが代表者になってらっしゃいます。今後、

三共消毒が掲げる理想や目標を教えてください。

(泉) 平成の時代の今日、国内に於いては少子高齢化、海外に目を向けると楽観できない国際的経済状況、あらゆる産業は成熟期を迎え、今後も更なる激しい競争が続くと言われていています。会社の寿命は30年などと言われていますが、弊社はその3倍もの年月を生き抜いて参りました。しかし、その歴史の中で常に変わりが無いのは、薬剤に関する問題、訪問先での事故、作業に関するクレームなど、それぞれの行動に付随するトラブルです。

情報化時代の今、大小を問わず放置すれば企業の存続が危ぶまれる事態に発展しかねない。

基本に立ち返るという意味で、3年前より各部署に於いて改善点を掘り下げ、基本方針としてPDCA_{※1}を強力に打ち出しました。



全社員、年間4回の社内講習を受ける

(葛西) PDCAは、いつの時代も、何に於いても絶対的基本になりますね。不安定な時は、これに立ち返ることが重要だと

思います。

(泉) その通りです。90年の長い歴史があれば、会社として良くも悪くも色々問題を抱えてきます。改革改善なくして、更なる成長は見込めません。この問題軽減がわが社の現在の目標です。

(葛西) 90周年が過ぎると、あっという間に100周年の声が聞こえてきますが、そこら辺はいかがお感じですか？

(泉) 100周年を目指すにあたり、ここからが理想と言う話になるのですが、「日本一の品質とサービスを基調に進めていこう！」を三共消毒の基本として掲げています。顧客満足(CS)なくして、従業員満足(ES)も会社の発展もない、と言うのが当社の不変の理念です。

PCO業務も、薬剤なのか技術的なものかは不明ですが、何か画期的な新兵器(営業ツールとして)と呼べるものが登場しない限り、いたずらに価格競争が続いていくと考えられます。従って今後は“安かろう、悪かろう”の時代を終わらせ、徹底した品質管理、徹底したサービスの提供など、当社は実行していきたいと思っています。

(葛西) もう少し具体的に教えてくださいか？

(泉) 社内では「都構想」と呼んでおりましたが、品質効果とサービスを向上させる為、東京の組織を変更しました。品質とは技

株式会社三共消毒

術と人が一体になった際に素晴らしい効果を発揮します。それらを実行する組織を東京5営業所と技術部で作りました。また、その「人」をしっかり生かす為、夜間や特殊な仕事を更に専門化し、同時に労務管理の改善を図りました。

また積算管理部を設立し、適切な価格の確保の為、原価倍率やスペックの改定、提案などを含め、新規客・更新客のチェックを強化し、時代に即応し、且つ持続可能なシステムを確立しております。

これらを実行することで、先に申した三共消毒の理念と一致させることが出来たのです。



(葛西) 組織が大きいと、号令ひとつで「何かやれ!」と言っても、すぐには難しいですからね。泉さんがおっしゃる様に、節目と会社の発展の為のビジョンをしっかりと持ちになって実行なさって来たんだなと感じます。

さて、御社のお話を色々伺ってまいりましたが、東京協会について副会長、または一協会員として何かご意見はありますか？

(泉) 私は昨年から東京協会副会長の役に就いていますが、その立場から考えるに東京のみならず日本のPCO業界もアメリカのような高い意識を持って業務に臨むべきだと思うんです。アメリカは日本と比較して、国民の生活衛生に対する意識がかなり高い。故にPCO業者もプロフェッショナルとして認知されており、また業者も作業の結果をシビアに求められるので、技術も知識も常に向上心を持って臨んでいる。先に述べた“安かろう悪かろう”と言うのはアメリカでは全く通用しません。求められる結果を出し、それに対する正当な対価を得る。日本ではまだまだその様な状況にほど遠い。国土の広さ・気候風土・国民性など違いは多々あれど、まず協会は協会員に対しそれらを常に発信し続け、意識の向上に向け努力していかなければならないと考えています。数年後にはオリンピックも控えており、間違いなく海外との交流が良くも悪くも激化します。感染症や昆虫類のトラブルが発生する可能性は大いにあるのだという危機意識をしっかりと持たなければなりません。その時東京協会がどのように対峙するのか。講習会の開催などで、技術や知識の向上は常に図っているが、今後も更に意識の向上は必要になるはずで。そのところを協会として、しっかりリードしていかなければと考えています。

(葛西) 知識・技術はもとより意識を高く持つ。もっとも基本的なことですが、あまり意識されないですね。協会としてしっかり協会員に意識付けをするとい

うのは、我々の使命ととらえ実行して
いきたいものです。

さて、長いお時間を頂きいろいろお
話を伺い、ありがとうございました。

(最後に…)

今回紙面の関係上、この様な内容の記事に
なりましたが、伺ったお話はとてつご紹介し
きれれておりません。

今後、何かの機会にご紹介できればと思いま
す。(葛西)

※1 PDCA

(PDCA cycle、plan-do-check-act cycle)は、事
業活動における生産管理や品質管理などの管
理業務を円滑に進める手法の一つ。Plan (計
画)→ Do (実行)→ Check (評価)→ Act (改善)
の4段階を繰り返すことによって、業務を継
続的に改善する。

